

【学校教育目標】

～明るい未来を拓く～

社会に自立する生徒の育成

【校訓】力強く 心豊かに たゆみなく

学校HP <http://www16.sapporo-c.ed.jp/kamishinoro-j/>

発行者：校長 伊藤 直

上 篠 路

旅立ちの今、たしかめ合って…

第31回 卒業証書授与式



学校長式辞より

春の日差しが一段と暖かさを増してきた今日のよき日に、札幌市立上篠路中学校を卒業される皆さん、卒業おめでとうございます。「卒業」という人生の節目を迎え、皆さんの胸の中には、毎日を通じた教室の風景や学校行事などの思い出、共に喜び、時に涙しながらも、支え合ってきた多くの仲間たちとの笑顔が走馬灯のようによみがえっていることでしょう。皆さんは、この三年間、さまざまな場面において成果を挙げ、上篠路中学校の歴史に新たな1ページを書き加えてくれました。いつも一生懸命で、誠意あふれる言動に対して、心から称賛の拍手を贈りたいと思います。

さて、これまで皆さんは、信じあう仲間とお互いの思いや考えを語り合いながら、未来に向けて描く「夢をもつ心」の大切さを学んだと思います。そして、夢を求め続ける勇気さえあれば、「夢は叶うもの」と皆さんは知っています。

また、苦手なことに挑戦し、克服できるように努力したり、自分の役割を考えながら、仲間と協力してきたりした経験は、これから社会がどんなに変化したとしても、皆さんの「夢を実現する力」として必ず役立つはずです。これからの未来を切り拓き、自分の人生を充実したものとするためには、この「夢をもつ心」と「夢を実現する力」のどちらも必要です。先が見通せない変化の激しい時代だからこそ、みなさんには大きな人生の夢を描いてほしいと思います。

以前、新聞のコラム欄に、松本零士さん（彼は漫画家で「宇宙戦艦ヤマト」や「銀河鉄道999」など宇宙を描くアニメ界の巨匠です）その松本さんの中学生に向けてのメッセージが掲載されていました。その一部を紹介したいと思います。

「あなたの人生は、はじまったばかりだ。目の前には、時間という宝物がある。時間は夢を裏切らない。無限大の可能性がある。未来は両手を広げてあなたを待っている。人はみんな何かを成し遂げるために生まれてくる。それぞれ果たすべき役割がある。自分は何のために生まれてきたのか。それは今わからなくてもいい。必ずわかる時がくる。いずれ、自分はこうなりたいという夢が見えてくる。それが、どんなに大きな夢でも恥ずかしがることはない。夢は、大きければ大きいほどよい。年をとればとるほど、夢は縮んでいく。だから、夢の土台は大きく構えなければいけない。」

以上が、「大きな夢が支えてくれる」という松本零士さんのメッセージです。夢を描くことは人間にしかできません。自分が将来どのような大人になり、何にチャレンジしていきたいのか、などは、人間だからこそ考えることができるのです。そして、夢の実現には力をつけなければなりません。これからの長い人生の中には、いくつもの困難があるかもしれません。勉強をしても、努力をしても、すぐに効果が現れるとは限りません。あせらず、途中であきらめずに努力を続けてください。夢や目標に向けた強い意志や意欲があれば、結果が必ずついてくることを信じ、挑戦を続けてほしいと思います。皆さんが、自分のよさと可能性を発揮しながら、夢の実現に少しずつ到達できることを願っています。

結びになりますが、今日、卒業する110名は、先輩としての多くの素晴らしい足跡を上篠路中学校に残してきました。良き伝統と校風は、皆さんの後輩たちによって引き継がれ、さらに発展していくことでしょう。上篠路中学校を巣立つ卒業生の皆さん、これからの人生で、皆さんが心身ともにさらに成長し、社会で大きく活躍されることを心より祈って、お祝いの言葉といたします。

別れの言葉

卒業生代表 木村 日南(第31期生徒会長)

積雪残る春を迎え、まだ雪解けには日がかかりそうですが、まるで別れを惜しむかのようにも見えます。

今日、私たちは、通いなれたこの上條路中学校で卒業式を迎えることができました。先生方、私たち卒業生のためにこのような式典を催していただき、ありがとうございました。

3年前、真新しい制服に身を包み、これからの北や不安を胸に抱きながら臨んだ入学式。迎えて下さった先輩方がとても大人に見えたことを覚えています。今では、ぶかぶかだった制服もすっかり身に馴染み、期待や不安も様々な思い出に変わりました。

計画通りに行動することの大切さを学んだ野外学習。学年目標「日進月歩」を意識しながら生活し、幼かった心が大きく成長した1年でもありました。

開校30周年という節目の年に向かえた2年生。自分たちが先輩となった自覚をもち、見本になれるように努めてきました。学年目標「スケッチブック」。地震の影響で短くなった準備期間の中で、仲間と協力してつくりあげた学校祭も、最高の思い出の1ページとなりました。

そして、ついに迎えた3年生。中学校最大の行事である見学旅行では、貴重な体験から多くの事を学びました。学年目標は「ひまわり」。同じ目標に向かって仲間と協力することを意識したこの目標も、体育大会や合唱コンクール、大縄跳び大会などの行事で意識し、絆を深めることができました。このように、様々な出来事が、今、私たちの胸には思い出として残っています。

ところで、皆さんはこの言葉を知っているでしょうか。「今日という一日は、残りの人生の最初の日である。」という言葉です。これは、チャールズ・ディードリッヒという人の有名な格言で、映画のセリフにも引用されています。これから、より大人に近づいていく上で、大きな失敗をして落ち込むかもしれません。過ぎ去った日々や時間を取り戻すことはできませんが、「今日」という一日を大切にすることで、これから先の人生が素敵なものになるのではないかと、この言葉を聞いて思いました。

わたしたちは3年間で培ったものを糧に、自分を信じて、一日一日を大切に、勇気をもって立ち向かっていきます。

最後になりましたが、私たちが温かく見守ってくださったすべての方々に、そして中学校生活を無事に遅れたことに心から感謝し、お別れの言葉とさせていただきます。



今年は新型コロナウイルスの影響で、保護者のみなさんに卒業式を見ていただくことはできませんでしたが、たくさんの方々の温かい気持ちに包まれて、3年生が本校を巣立っていきました。

各自が未来へ一步踏み出そう！

～「わくわく」感を大切に！ つながろう！つなげよう！～